

AI 活用で挑む学問の革新と創成
2021 年度採択研究者

2021 年度 年次報告書

林 和真

東京都市大学 大学院環境情報学研究科
准教授

AI で拓く都市集合知形成に向けた都市マネジメント

§ 1. 研究成果の概要

2021年度は、対象地域を選定するために地域の現状や取り組みに関する基礎的な調査を行った。調査結果を踏まえて実施可能な社会実装の条件を検討した。本研究では、都市マネジメント課題別に2つの対象地域を選定した。大都市圏郊外地域として、東急田園都市線周辺地域で違う地方公共団体を含む広域エリアを選定した。地方中核都市では、人口20万程度の都市である沼津市の中心市街地と近接した老朽化した団地エリアを選定した。これらの地域について、基礎調査や地域マネジメント主体(行政、企業、市民団体など)との調整を踏まえて研究推進体制を整えた。

地域住民のニーズを把握し、都市マネジメントの課題を明確化するために、各地域におけるまちづくり主体と協力し、住民向けのワークショップを行った。

その結果、田園都市地域においては緑管理のギャップがあり、行政によるマネジメントが行き届かないこととしても緑地環境管理の不連続性が指摘された。さらに地域での大きな課題としては、高齢者への住み替えや持続的な高齢化ケアとまちづくり担い手の世代交代が重要となっていることが分かった。

また、2021年12月に、沼津市における築50年以上の団地を対象に地域有志と協力し、住民のニーズ発掘のためにワークショップを行った。ワークショップの結果、団地暮らしにおいて、最も解決が難しいが、解決が必要な課題としてコミュニケーションの問題が浮き彫りになった。

上記のような基盤づくりを進めると同時に広範囲で既存データの分析(住民意識調査など)を行うとともに質問紙調査を計画した。これと並行し、まちの情報や歴史に関する資料をアナログデータからデジタルデータとして変換し、アーカイビングを行うための準備作業を行った。